

令和2年度改訂

複式学習指導

大島の教育 Pamphlet5

奄美のよさを生かした活力ある教育の充実

かけがえのない「仲間」と学ぶ

～複式学習指導の工夫～



© K.P.V.B

令和3年1月

大島教育事務所

目 次

大島の教育Pamphlet5ダイジェスト版	1
I 複式学級とは	2
1 複式学級とは	2
2 複式学級の特性	2
3 複式学級の基本的な指導計画と指導形態	3
II 複式学習指導の基本的な考え方	4
1 複式学級の特性を生かした指導とは	4
2 複式学級の特性を生かした指導の留意点	4
III 複式学級における指導のポイント	5
1 学年別指導の工夫	5
2 直接指導の工夫	8
3 間接指導の工夫	9
4 ガイド学習	11
【引用・参考文献】	13

かけがえのない「仲間」と学ぶ ～複式学習指導の工夫～

I 複式学級とは

□ よさ ■ 課題

異年齢集団としての特性

- よきリーダー，よき協力者の形成
- 主体的な学習態度の育成
- 児童生徒の能力逆転現象の可能性

少人数集団としての特性

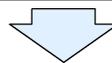
- 児童生徒一人一人の存在感の大きさ
- 協働的態度の育成
- 見方や考え方，役割の平板化

複式学級のよさに目を向け，よさを最大限に活用するという意識

学習指導の類型

学年別指導

同単元指導[一本案・二本案・折衷案・完全一本案]



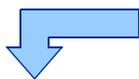
II 複式学習指導の基本的な考え方

- 教師が目指す指導の姿とは……
 - ◇ 児童生徒一人一人の主体的な学習を促す指導
 - ◇ 児童生徒一人一人が活躍できる場を保障する指導
 - ◇ 同学年や異学年と協力したり，学び合ったりする学習を促す指導
 - ◇ 個別の状況に応じた対応を積極的に行う指導
 - ◇ 児童生徒一人一人が，自分の思いや考えを伝え合うことができる指導

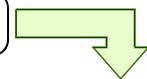


授業に応じて、「学年別指導」と「同単元指導」を使い分けることが重要！

III 複式学級における指導のポイント



「直接指導」と「間接指導」の効果的な組合せを！



直接指導

教師による直接指導の際の働きかけが，間接指導における児童生徒の主体的な学習を促します。

- 指導内容の精選
- 学習方法，学習条件の整理
- わたりの前の見届けの徹底 など

間接指導

「学習の流れ」を児童生徒一人一人がつかめば，自力及び相互解決が促されます。

- 学習の進め方の活用
- ガイド学習の習熟
- ペア・グループ学習の充実
- タブレット等のICT機器活用 など



大島教育事務所では，初めて複式学級を担任する先生のためのDVD「複式学習指導の進め方～よりよい授業を目指して～」を作成しています。教育委員会に配布してありますので，ぜひ，視聴して複式学習指導のイメージを膨らませてください。



I 複式学級とは

1 複式学級とは

複式学級は、2学年が同一教室で一緒に学習したり、生活したりする学級です。初めて複式学級の担任を任せられたときは、「児童生徒に半分の時間しか関わることができないから、学力をどのように付けていけばよいのか。」「2学年分の指導をしなくてはならないので、個に応じた指導がしにくいのではないか。」など不安を募らせがちですが、複式学級の特性を理解することで指導の方向性が分かります。

2 複式学級の特性

(1) 異年齢集団としての特性

<p>ア よきリーダー、よき協力者の形成</p>	<p>□ リーダーと協力者という両方の立場を経験することができる。</p> <p>□ 上・下学年という関係の中で、社会性が身に付きやすい。</p> <p>□ 異学年，同学年の中で助け合って活動する場を多く設定することができ，協力する態度が身に付きやすい。</p>	
<p>イ 主体的な学習態度の形成</p>	<p>□ 教師が授業中に付くことができない間接指導の時間が存在することで、主体的に学習を進める態度や力が身に付きやすい。</p>	
<p>ウ 児童生徒の能力逆転現象の可能性</p>	<p>■ 児童生徒の能力が、学年の進み具合と必ずしも一致しない場合がある。下学年の児童生徒の能力の方が高くなる逆転現象も考えられる。</p>	

(2) 少人数集団としての特性

<p>ア 学級内の一人一人の存在感の大きさ</p>	<p>□ 児童生徒同士，教師と児童生徒の人間関係が深まりやすい。</p> <p>□ 相互に理解し合い，認め合う雰囲気醸成しやすい。</p> <p>□ 係活動や委員会など，一人一人の活躍の場が保証されており，自覚をもって行動させやすい。</p>	
<p>イ 協働的態度の育成</p>	<p>□ まとまりのある学級を意識して生活を送り，協働的態度が育成されやすい。</p>	
<p>ウ 見方や考え方，役割の平板化</p>	<p>■ 多様な見方や考え方が出にくい。</p> <p>■ 能力の高い児童生徒の考えに左右されやすい。</p> <p>■ 意見交換を基にした話し合いが活性化されにくい。</p>	

私たち教師は、複式学級のよさに目を向け、そのよさを最大限に生かすという意識をもつことが大切です。デメリットばかり考えていても児童生徒を伸ばすことはできません。



3 複式学級の基本的な指導計画と指導形態

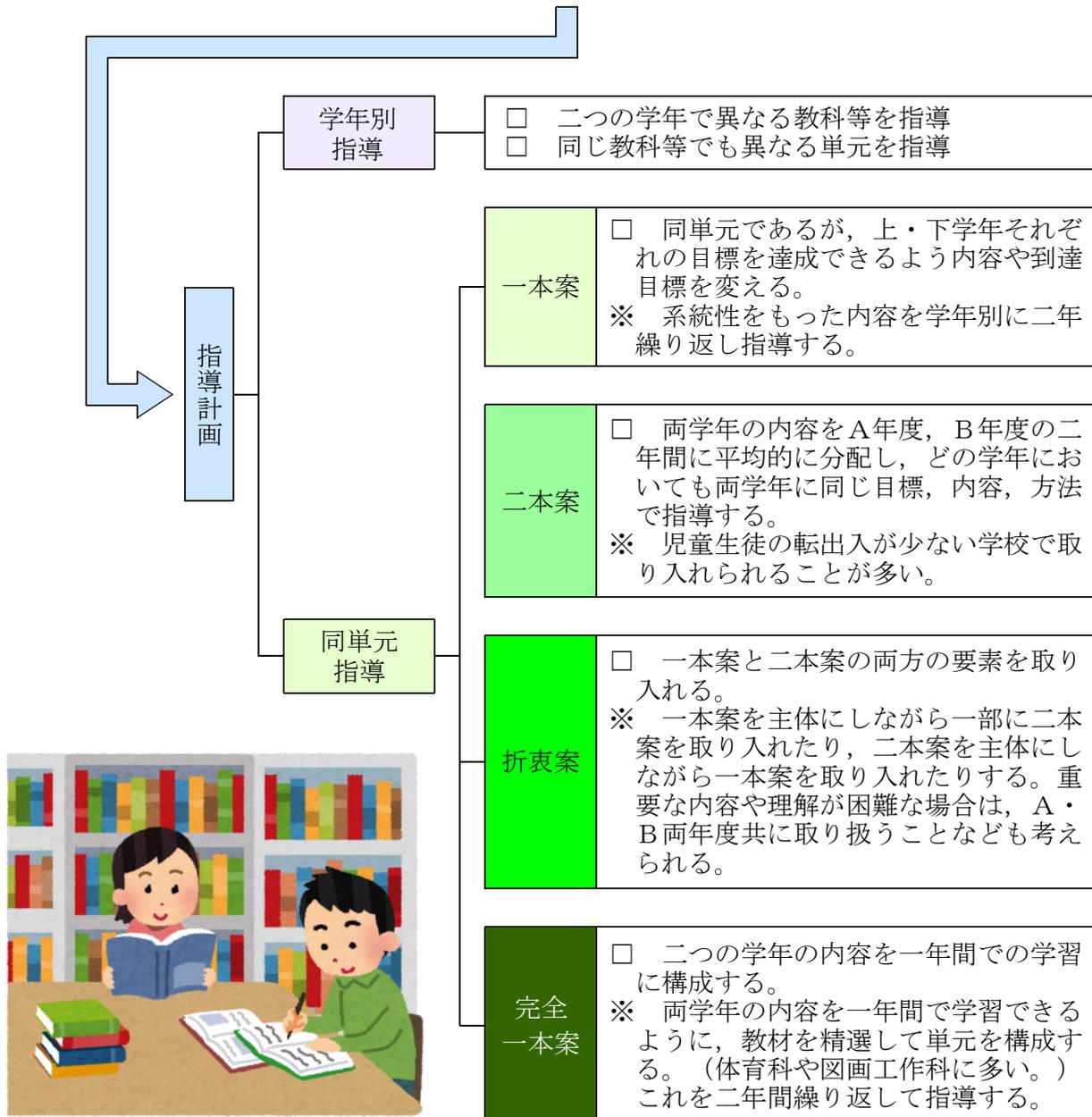
複式学習指導を行う際には、今後の学級編制の状況を踏まえた上で指導計画を作成することが必要です。

そして、指導形態には、学年ごとに学習を行う「学年別指導」と、二つの学年を一つの学級とみなして指導する「同単元指導」があります。



複式学級の指導形態と指導計画

指導形態	主に学年ごとに別々に進める指導形態	主に二つの学年を一つの学級とみなしてする指導形態			
	学年別指導	同単元指導			
		一本案による指導	二本案による指導	折衷案による指導	完全一本案による指導
指導計画	一年ごとの計画	A年度 B年度	二年にわたる 計画	一年ごとの計画	



Ⅱ 複式学習指導の基本的な考え方

1 複式学級の特性を生かした指導とは

複式学級においては、2学年の授業を1人の教員が担当するので、必然的に単式学級以上に児童生徒だけで学習を進めなければならない状況が生まれます。これは短所のようにですが、児童生徒の学び方によっては長所となります。

複式学習指導に当たって、教師は、事前に本時の目標を明確にし、直接指導と間接指導を使い分け、児童生徒が主体的に学習できる展開を考えておくことが必要です。その結果、教師が一方的に教えるのではなく、児童生徒自らが学習を進め、考えを発表し、学び合えるような授業となります。

このような複式学習指導は、主体的・対話的で深い学びを実現します。複式学級のよさを生かすためにも、教師は、単式学級と同じ指導方法を持ち込むのではなく、指導方法を見直し、児童生徒の実態に合った授業を展開していく必要があります。

- 児童生徒一人一人の主体的な学習を促す指導
- 児童生徒一人一人が活躍できる場を保障する指導
- 同学年や異学年と協力したり、学び合ったりする学習を促す指導
- 個別の状況に応じた対応を積極的に行う指導
- 児童生徒一人一人が、自分の思いや考えを伝え合うことができる指導



2 複式学級の特性を生かした指導の留意点

(1) 指導内容の精選と活動の見極め、学習形態の工夫

- 何を、どのように【指導内容の精選】
- どのくらい【学習活動の見極め】
 - 学習過程のずらし、わたりのタイミング
- 誰と【学習形態の工夫】

(2) 教師の具体的な働きかけ

- 中心発問の精選 → 間接指導に入る前の効果的な課題提示の方法
- 構造的な板書の工夫 → 活動の見通しの可視化
- ワークシートの活用 → 学習を進める際のヒント的な役割
- 学習資料の準備 → 多様な見方や考え方を引き出す素材
- ICT機器の効果的な活用 → タブレット、書画カメラ、電子黒板 等



ア 全員の考えや意見を授業に反映させる。← 学習意欲の高揚

- 小黒板・発表ボード等の利用

イ 多様な考えを引き出す働きかけを行う。← 考えの画一化を防ぐ手立ての実施

- 教師によるモデル提示
- 仮想級友の設定

ウ 話し合いを活性化させる。← 協力して学び合う雰囲気の醸成

- ガイド学習の習熟

Point

Ⅲ 複式学級における指導のポイント

1 学年別指導の工夫

(1) 学年別指導

学年別指導とは、2学年の児童生徒に対して同時に授業を行うことです。この場合、教師は、それぞれの学年の児童生徒に対して異なる内容を指導することになります。一方の学年に指導[直接指導]している間は、もう一方の学年は自主的に自分たちで学習を進めていくこと[間接指導]になります。

長 所	短 所
<input type="checkbox"/> 学年の発達段階に応じた指導ができる。 <input type="checkbox"/> 教科等の系統性を踏まえた指導ができる。 <input type="checkbox"/> 学級編制の変動に左右されない。 <input type="checkbox"/> 指導計画を立案しやすい。 <input type="checkbox"/> 教科書の使用がしやすい。	<input checked="" type="checkbox"/> 指導が分割され、断片的になりやすい。 <input checked="" type="checkbox"/> 実験・観察などの指導が徹底できない。 <input checked="" type="checkbox"/> 学級全員で学習する機会が少ない。 <input checked="" type="checkbox"/> 直接・間接指導の構成が難しい。 <input checked="" type="checkbox"/> 教材研究の負担が大きい。

ア 「わたり」と「ずらし」

わ たり

学年別指導において、教師は直接指導と間接指導の組合せにしたがって一方の学年からもう一方の学年へと移動して直接指導を行います。

この学年間を「わたり歩く」教師の動きを「わたり」と呼びます。




学習過程(下学年)	教 師 の 関 わ り		学習過程(上学年)
課題把握	直接指導	間接指導	適用・発展
課題追究	間接指導	直接指導	課題把握
解決・定着	直接指導	間接指導	課題追究
適用・発展	間接指導	直接指導	解決・定着



ず ら し

学年別指導では、2学年をわたり歩いて、直接指導と間接指導を充実させ、学習活動を無理なく効率的かつ効果的に行うことが大切です。そこで、学習過程を学年別に「ずらした組み合わせ」にします。

この組合せを「ずらし」と呼びます。つまり、両学年の直接指導を行わなければならない過程が重ならないように工夫するという事です。



イ 1 単位時間の基本的な学習過程(例)

過程	[下 学 年] 主な学習活動と指導の流れ	教師の わたり	[上 学 年] 主な学習活動と指導の流れ	過程
課題把握	1 興味関心が生まれる導入 <input type="checkbox"/> 「学びたい」、「してみたい」を引き出す。 2 課題(問題)意識の焦点化 <input type="checkbox"/> 「分からないこと、知りたいこと」を絞り込ませる。 3 学習課題(問題)・めあての設定 <input type="checkbox"/> 「分からないこと、知りたいこと」を可視化させる。 4 解決の予想と見通し <input type="checkbox"/> 解決を予想する。 <input type="checkbox"/> 解決の方法と順序を確認させる。		1 習熟 <input type="checkbox"/> 「分かったこと、知ったこと」を一般化させる。 2 振り返り(自己評価, 相互評価) <input type="checkbox"/> 「分かったこと、知ったこと」を振り返らせる。 <input type="checkbox"/> 学び方を振り返らせる。 	適用・発展
課題追究	5 自力解決による最初の考え(仮説)の構築 <input type="checkbox"/> 自分の考えを確実にもたせる。 6 考えの共有(学び合い) <input type="checkbox"/> 自分の考えを伝えさせる。 <input type="checkbox"/> 他人の考えを受けとめさせる。 <input type="checkbox"/> 自分の考えが変容していくことを実感させる。 		3 興味関心が生まれる導入 <input type="checkbox"/> 「学びたい」、「してみたい」を引き出す。 4 課題(問題)意識の焦点化 <input type="checkbox"/> 「分からないこと、知りたいこと」を絞り込ませる。 5 学習課題(問題)・めあての設定 <input type="checkbox"/> 「分からないこと、知りたいこと」を可視化させる。 6 解決の予想と見通し <input type="checkbox"/> 解決を予想する。 <input type="checkbox"/> 解決の方法と順序を確認させる。	課題把握
解決・定着	7 自力解決による最終的な考えの構築 <input type="checkbox"/> 自分の考えの変容を確認させる。 8 学習のまとめ <input type="checkbox"/> 「分かったこと、知ったこと」などを可視化させる。		7 自力解決による最初の考え(仮説)の構築 <input type="checkbox"/> 自分の考えを確実にもたせる。 8 考えの共有(学び合い) <input type="checkbox"/> 自分の考えを伝えさせる。 <input type="checkbox"/> 他人の考えを受けとめさせる。 <input type="checkbox"/> 自分の考えが変容していくことを実感させる。 	課題追究
適用・発展	9 習熟 <input type="checkbox"/> 「分かったこと、知ったこと」を一般化させる。 10 振り返り(自己評価, 相互評価) <input type="checkbox"/> 「分かったこと、知ったこと」を振り返らせる。 <input type="checkbox"/> 学び方を振り返らせる。 		9 自力解決による最終的な考えの構築 <input type="checkbox"/> 自分の考えの変容を確認させる。 10 学習のまとめ <input type="checkbox"/> 「分かったこと、知ったこと」などを可視化させる。	解決・定着

1 単位時間の学習過程をずらすことにより、導入における重点的な指導が可能になり、ゆとりをもって学習に取り組むことができます。これは、単元全体の指導計画をずらして行うことに対しても同じことがいえます。

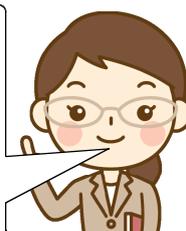


ウ わたりの類型

(ア) 時間的・内容的に直接指導の機会が明確に位置付けられているタイプ

上学年	適用・発展	課題把握	課題追究	解決・定着
わたり				
下学年	課題把握	課題追究	解決・定着	適用・発展

児童生徒が時間をもて余すことのないよう、しっかり準備しましょう。



(イ) 一方の学年の直接指導に重点を置くタイプ

上学年	適用・発展	課題把握	課題追究	解決・定着
わたり				
下学年	課題把握	課題追究	解決・定着	適用・発展

上学年の学習能力が高い場合は、下学年へ重点的指導を行うことも可能です。



(ウ) 大まかな学習計画に基づき、わたりの回数や指導内容に幅をもたせるタイプ

上学年	適用・発展	課題把握	課題追究	解決・定着
わたり				
下学年	課題把握	課題追究	解決・定着	適用・発展

極小人数等の学級では可能ですが、無計画にわたるようなことがあってはなりません。



エ ずらしの類型

わたりとずらしは、表裏一体の関係にあります。教材や児童生徒の実態に応じて、1単位時間の指導の重点をどこにおくかしっかりと捉え、学習過程のずらしを決定することが必要です。

(ア) 学習過程ごとずらすタイプ

上学年	適用・発展	課題把握	課題追究	解決・定着
わたり				
下学年	課題把握	課題追究	解決・定着	適用・発展

学習経験の乏しい下学年の直接指導から授業を始める最も基本的なずらしのパターンです。



(イ) 児童生徒の学習状況に応じ、各過程の時間配分をずらすタイプ

上学年	課題把握	課題追究	解決・定着	適用・発展
わたり				
下学年	課題把握	課題追究	解決・定着	適用・発展

学習過程の時間配分をずらすことで、授業の導入と終末に同時直接指導の時間を確保するパターンです。



(ウ) 単元全体をずらすタイプ

A学年	単元の導入		単元のまとめ
B学年		単元の導入	単元のまとめ

単元全体をずらすことで、両学年の単元の導入場面が重ならず、児童生徒にとっても教師にとってもゆとりをもって学習に入ることができます。



2 直接指導の工夫

(1) 直接指導とは

直接指導とは、児童生徒自らが問題を発見し、追究し、その問題を解決していく学習が進められるように教師の直接的な働きかけを行うことです。そのために教師は、

- 間接指導の際の自主学習を効果的に進めるために、指導内容を精選し、学習の方法、条件を整える。
- 直接指導は、間接指導を支える基礎的・基本的な知識や技能の学習の場であり、教えなければならないことは徹底して教える。



ことを大切にしていかなければなりません。

(2) 教師の働きかけの例

ア 書くことで考える活動を充実させるための工夫

- 自分の考えをノートやホワイトボードに書かせる時には、自分の考えに加え、根拠も書かせる。その際、自分の考えを具体的に伝えるために、文章や図を用いさせる。
- 自分の考えの変容を把握させるために、メモを取る際には、丸囲みや矢印、記号などを用いさせ、そこに至るまでの過程が分かるように記録として残させる。
- 自分の考えとの共通点や相違点、分かったことをはっきりとさせるために、その根拠となった級友の考えをノートにまとめさせる。
- 自分の考えをまとめたり、学習を振り返ったりする際のヒントにさせるために、級友からもらった意見や感想を書いたメモ(付箋等)をノートに貼らせる。



イ 多様な考えにふれさせるための手立て

過小規模校では、学年1人の在籍の場合もあります。そういった場合に教師は、どのようにして多様な考えにふれさせようか悩むものです。多様な考えを「多くの考え」というように量的なことで捉えがちですが、必ずしもそうではありません。その時間のねらいに迫るために必要なものの見方や考え方といった視点で捉えることが大切です。このような視点に立った授業を展開することで、児童生徒は多面的な見方や考え方をすることが可能となり、学習の方向性を見出したり、学習内容を深めたりすることができます。

そういった授業を展開するためには、次のようなことに留意することが重要です。

- (ア) 事前に教師が予想する。
- (イ) 問題解決の方向性を示し、多様な考えを導き出す。
- (ウ) 捉える視点の違いから多様な考えを導き出す。
- (エ) 仮想級友を設定し、多様な考えを引き出す。
- (オ) Web会議システムの活用で、多様な考えを引き出す。

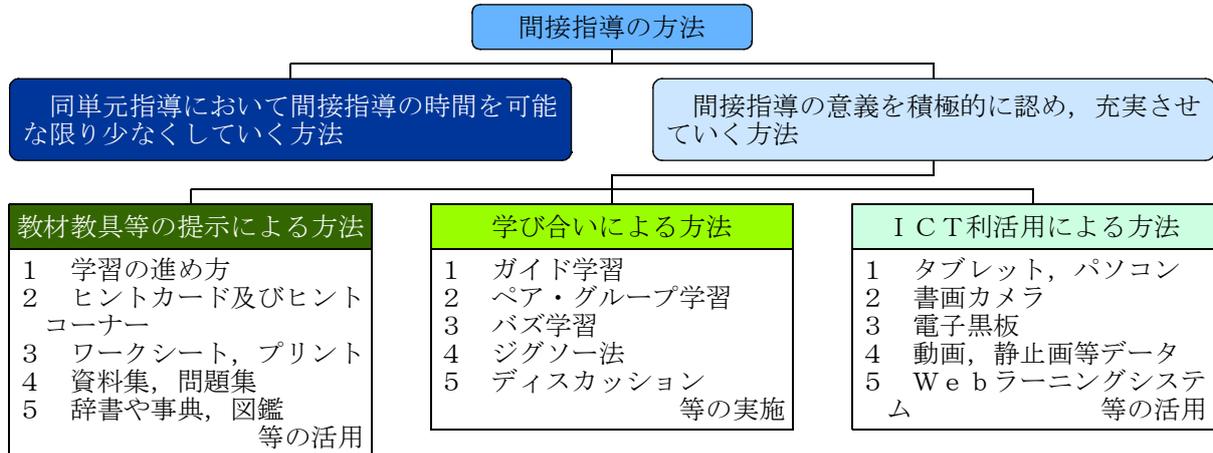


3 間接指導の工夫

(1) 間接指導

間接指導とは、教師の直接指導がなされていない過程において、児童生徒が自ら学習を進められるように間接的な働きかけを教師が行うことです。複式学習指導の効果を高めるためには、主体的に学習することができるようにすることが大切です。

間接指導については、大別すると次のような2つの考え方があります。間接指導は、児童生徒による自主的な問題解決的な学習であり、教師は教材教具等の準備や環境整備など具体的な手立てを講じることが必要です。



(2) 学習の進め方の活用

間接指導を行う際は、児童生徒が自分たちの力で学習を進めるために学び方を身に付けておくことが重要です。そこで、学習の方法や手順を示した「学習の進め方」を作成し、児童生徒に身に付けさせておくことは有効な手立てとなります。

学習の進め方(例)

導 入	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 前時のまとめの確認をし、復習をする。 <input type="checkbox"/> 前時の続きの活動を進める。 <input type="checkbox"/> 本時の課題から問題へ焦点化する。 <input type="checkbox"/> 学習計画表等から、本時の問題を確認する。 <input type="checkbox"/> 解決の見通しをもつ。 <input type="checkbox"/> 「何を」、「何時までに」、「誰と」行うのか確認する。 <p style="text-align: center;">(一人で○分, ペアで○分, グループで○分, 全体で○分)</p>	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自力で課題を追究する。 <input type="checkbox"/> ペアやグループで問題の解決方法を話し合う。 <input type="checkbox"/> 問題に沿って、学習の大事なことをまとめる。 <input type="checkbox"/> 分からないことがある場合は、級友にいつでも相談する。 <input type="checkbox"/> 先生が戻ってきた時に、どんな話し合いをしたか説明できるように記録をとっておく。 	
終 末	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自分の力で不足している部分を明確にし、練習する。 <input type="checkbox"/> 応用・発展問題にチャレンジする。 <input type="checkbox"/> 学習を振り返り、自己評価・相互評価を行う。 <input type="checkbox"/> 本時の学習を振り返り、できるようになったことを自分の言葉でまとめる。 <input type="checkbox"/> 感想を交流する。 	

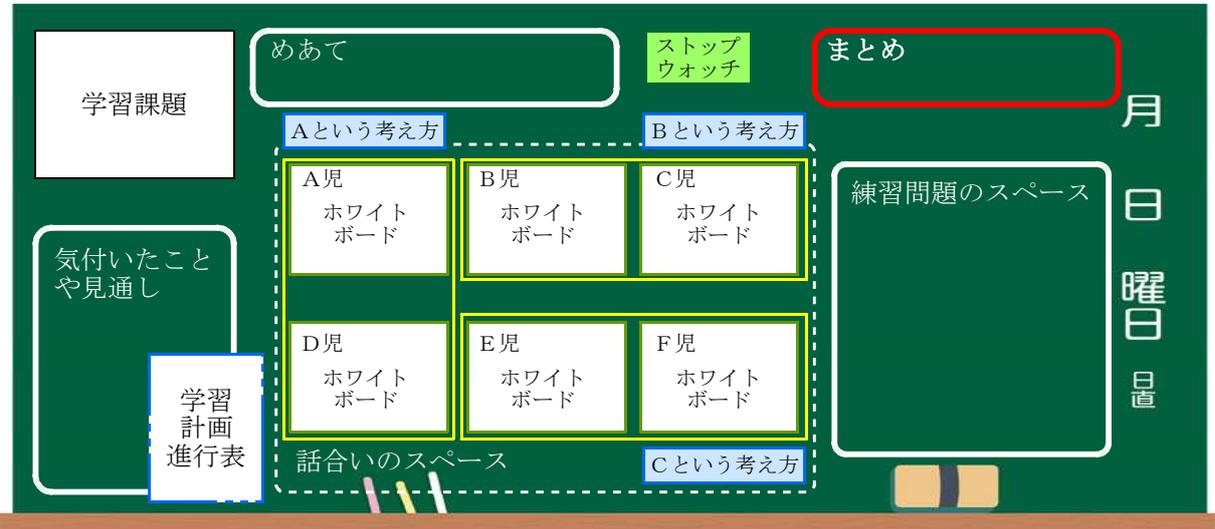
間接指導の際に、児童生徒が「何をすればよいか、分からない」、「解決の見通しがもてない」、「解決し終わらない」という状況にならないようにすることが大切です。教師は、その前の直接指導で「何を」、「何のために」、「どのようにする」のか明確に押さえさせることが重要です。



(3) 黒板やホワイトボードの使い方の工夫

学習を進行する際、黒板に書かれた内容によって、児童生徒は学習の見通しをもつことができます。また、間接指導の間の児童生徒の発表の様子や話合いの深まりを捉えるために児童生徒による板書は、とても重要な材料となります。そのためにも、児童生徒が上手に黒板やホワイトボードに記録できるように育てていかなければなりません。また、考えを出し合う際は、どの児童生徒の考えか分かるように名前カードを使うことも有効です。

このように「板書をみんなで創っていく」という考え方で児童生徒の話合いを中心に学習を進めることで、児童生徒の主体的な学習が促されやすくなります。

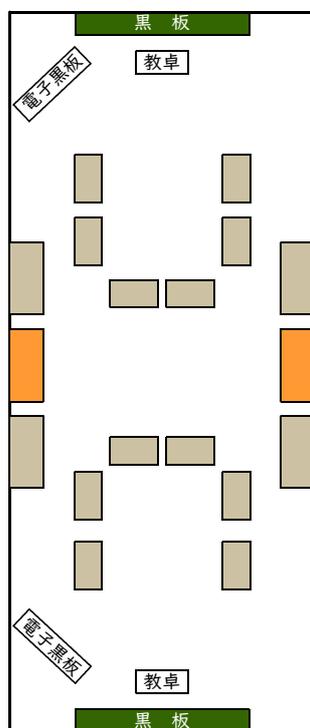


[構造的な板書(例)]

(4) ヒントカード及びヒントコーナーによる支援

□ 自力解決を後押しするヒントカード
自力解決へのヒントが書いてあるプリントを準備します。具体的には、次の2つに大別されます。

- 事前に準備したヒントカード
児童生徒のつまずきを予想して、つまずきを解消するためのものです。
- 臨機応変に対応するための筆談形式のヒントカード
児童生徒の学習状況に応じて、ヒントカードを渡します。



□ 再操作・再現に没頭できるヒントコーナー
周囲の級友に気兼ねすることなく、操作・再現活動に取り組むことができるように次のような手立てを講じます。

- 実物や具体物などを常設しておき、いつでも活用できるようにする。
 - ・ 辞書や事典、図鑑
 - ・ 地図、資料集
 - ・ ブロックや電卓
- パーティションで区切る。
移動式ついでを活用するなどして、周囲の視線を気にすることなく活動に集中できるようにする。



間接指導の時間をより効果的に進めるためには準備が必要です。個人で用意するのではなく学校として準備を進めていきましょう。

□ 習熟・応用・活用を図るヒントコーナー
補充的な手立てとしてだけでなく、学習したことの確認や発展的な学習を促すための手立てとしてコーナーを活用することも効果的です。

- 個に応じた支援ができるようにする。
問題の難易度を変えたり、問題の種類を増やしたりすることで、児童生徒の習熟度やニーズに応じて活用する。



4 ガイド学習

(1) ガイド学習

ガイド学習は、間接指導をより充実させるために考え出された学習形態の1つです。学習集団の中からガイド役の児童生徒を決め、そのガイドが教師との話し合いなどにより立てた学習進行計画に沿って授業を進める方式です。

(2) ガイド学習のねらい

- ア 発表の仕方や聞き方の能力を向上させ、思考の深化を図る。
- イ 学習の手順や学び方をつかませ、積極的な学習意欲を養う。
- ウ 学習効率を高め、個別指導を充実する。
- エ 話し合い、助け合いの場をとおして社会性を養う。
- オ 一人一人のよさや持ち味を発揮させ、それを伸ばす場とする。

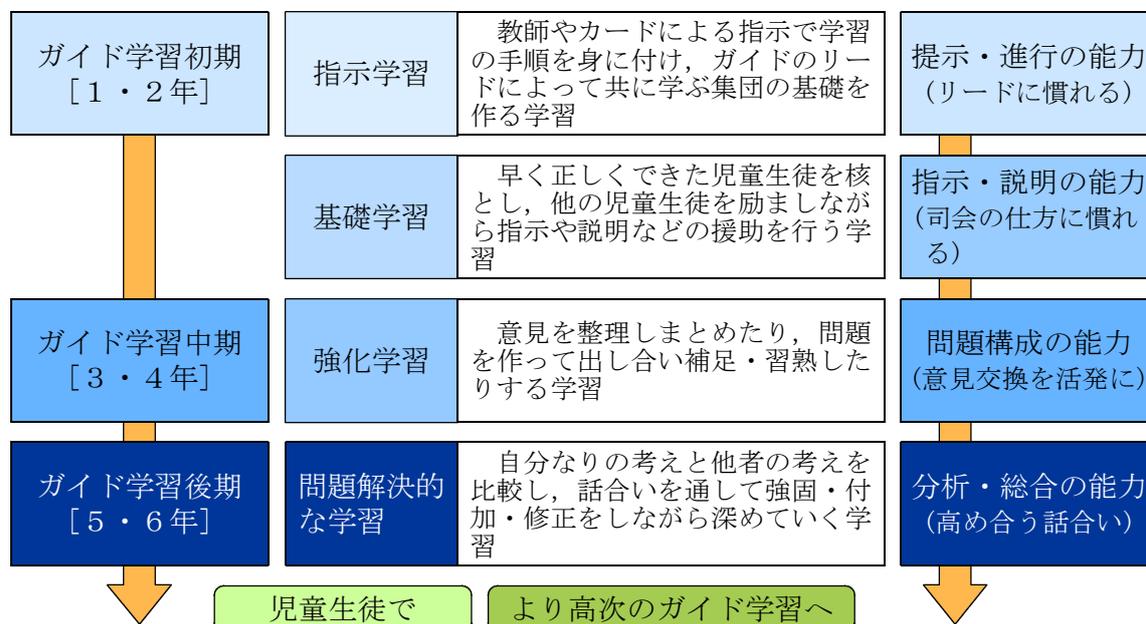


ガイドとフォロワーを育て、主体的・対話的で深い学びの実現を目指しましょう。

(3) ガイド学習を行う上での留意点

ガイド学習を充実させるためには、ガイドとフォロワーの育成が不可欠です。低学年や初めて複式学級となった学級においては、ガイドは教師の作成した学習カードを基に進行する経験を重ね、ガイド中心に学ぶ学習集団づくりの基礎を養います。その経験を積み重ねながら、中・高学年へと進む中で、学習カードがなくても進行できるようになります。さらには、話し合いの学習において、話し方や聞き方の力が積み上げられることで、他者の発言と自らの考えを関連させながら考えたり、発言したりできるようになっていきます。学級の誰もがガイドの役割が果たせるように順番に経験を積み重ねていくことで、より協働的に、主体的に学ぶことができる集団に育っていくようにします。

教師の指導の基に



[ガイド学習における教師の働きかけ]

- | | |
|-------------|------------------------|
| ア 中心的な発問の精選 | → 間接指導に入る前の効果的な課題提示の仕方 |
| イ 構造的な板書の工夫 | → 活動の「見える」化 |
| ウ ワークシートの活用 | → 学習を進める上でのヒント |
| エ 学習資料の準備 | → 多様な見方や考え方を引き出す工夫 |
| オ わたる前の働きかけ | |
| □ 学習進行表の活用 | → 直接指導の際、活動に見通しをもたせる。 |
| □ わたる前の見届け | → 活動ができるか見届けてからわたる。 |
| □ 手がかりになる板書 | → 学習の進め方、ヒント |
| カ 学び方の価値付け | → 次の学びへのつなぎ |

Point



(4) ガイドの位置付け

1 単位時間にガイドをどのように位置付けていくかは、ガイド学習の経験値や教科等の学習内容により柔軟に考えることが重要です。

ア 教師が中心となって授業を展開する場合

下学年	→ 教師 →	→ ガイド →	→ 教師 →	→ ガイド →
上学年	→ ガイド →	→ 教師 →	→ ガイド →	→ 教師 →

直接指導の間は教師が進行し、間接指導の間はガイドが中心となり進行するタイプです。

イ ガイドが中心となって授業を展開する場合[同時間接指導]

下学年	→ ガイド →					
教師	→	←	←	→	←	←
上学年	→ ガイド →					

1 単位時間全体をガイドが進行し、教師は個別に支援したり、ガイド役に働きかけたりしながら、全体へは間接指導を行うタイプです

(5) ガイドの手引(例)



国語科の学習の進め方(例)

- 1 今日の学習のめあては、○○です。
- 2 今日の場面を読みましょう。
 - 自由読み、一斉読み、順番読み、役割読み、黙読等
- 3 ワークシートに自分の考えを書き込みましょう。
 - 一人学び
どの文をもとにして考えたか、必ず書きましょう。
- 4 考えを発表しましょう。(指名)
 - ワークシートを黒板に貼って説明する。
 - 小黒板やホワイトボードを使って説明する。
 - 記録担当者が黒板に書く。
- 5 発表を聞いて質問はありませんか。
- 6 ワークシートの()のところを話し合います。
 - 同じところ、ちがうところはどこですか。
 - どうしてちがっているのでしょうか。
 - どこからちがってきたのでしょうか。

【意見がまとまらない場合】

 - もう一度教科書を読みましょう。
 - 分かったことを書き込みましょう。
 - ペア(グループ)で話し合ってみましょう。
 - 話し合いから気付いたことは、何でしょう。
- 7 友達の発表から、自分の考えをまとめましょう。
- 8 今日の学習を振り返りましょう。分かったことやできるようになったことは何ですか。具体的に書きましょう。

算数科の学習の進め方(例)

- 1 今日の学習のめあては、○○です。
- 2 今日の問題を読みましょう。
- 3 意味の分からないところは、ありませんか。
- 4 分かっていることに下線、求めることに波線を引いて発表してください。
- 5 何を使って解いたらよいと思いますか。考えてみてください。
 - さん、発表してください。
 - 他にもありませんか。
- 6 自分の考えた方法で調べてみましょう。
 - 分からない人は、ヒントカードや教科書を参考にしてください。
 - あと何分くらい必要ですか。
 - できた人は、発表ボードに自分の考えを書いてください。
- 7 自分の解き方を発表してください。
 - 付け足しや別の考えはありませんか。
 - 質問はありませんか。
- 8 今日の学習をまとめます。
 - 「○○は、◇◇をすれば解ける」でいいですか。
 - 「○○は、◇◇となっている」でいいですか。
- 9 先生、お願いします。
- 10 練習問題をします。
- 11 今日の学習のまとめを使って解いてください。
- 12 できた人は、発表してください。
 - 間違えた人はもう一度考えたり、友達に聞いたりしてください。

【引用・参考文献】

「南北600キロの教育～へき地・複式教育の手引～」 令和2年 鹿児島県教育委員会
「複式学級における学習指導の手引」

平成31年 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター
「各教科等の指導を通して資質・能力を育む複式指導のための資料集」

平成30年 岩手県教育委員会
「指導資料複式教育第59号」 平成28年 鹿児島県総合教育センター

「複式学習指導の手引」 平成28年 島根県教育委員会

「複式学級の特質を生かした学習指導の進め方ガイド」

平成27年 岩手県総合教育センター
「研究紀要」 平成22年～ 鹿児島大学教育学部附属小学校

「教育学部複式教育ハンドブック」 平成22年 広島大学教育学部附属東雲小学校

「複式指導の充実のために」 平成20年 大島教育事務所

「子どもの学びを支える複式授業」 平成19年 長崎県教育センター



「国頭小学校のガジュマル（和泊町）」